

テニスがもっと快適になる

第15回

ストリングの基礎知識

From テニサポ



知っているようで、あまり知られていないストリングのこと。このコーナーでは、読者から寄せられた素朴な疑問を、プロのストリンガーに答えてもらいました。皆さんのテニスライフの向上に役立ててください！

解説＝小笠原爽太(テニスサポートセンター仙川店)

ストリンガー歴、店舗では6年、自宅で張っていた時期を合わせたら11年。現在は大前綾希子選手など、複数のプロ選手の張りを担当する。

写真＝テニスサポートセンター

【今月のお題】 ストリンガーの技量差が出る部分と、聞き慣れない「面圧」について



高い技術を持った人が張ったストリングは、見た目の美しさはもちろんだが、作業時間も一定だから何本張ろうが仕上がりにムラがない



フェイス面の硬さを表現する際に使われる「面圧」だが、近年では面の硬さは「テンション」によって表現されているケースが多い

見た目と張り上げる時間
まず、わかりやすいところから話すと、張り上がりのストリングに傷があったり、ストリングがねじれていたりつぶれていたりするのは、技量の低さを表していると考えていいと思います。基本的にはそのような張りを良しとして提供している所はないと思いますが、もしある場合は注意しましょう。
次にストリングの張り替えにかかる時間です。確かに早く張れることに越したことはないですが、前述したようにストリングに傷やねじれ、つぶれができるような張り方で、ただ張ることが早いだけで技量があるかというところではないと思って

ストリングを張る人の技量差は、どんなところに出てきますか？
(テニス歴10年/30代男性)

高いと硬く、低いと柔らかい
面圧とはラケットに張ってあるストリングをたわませて、基準となる

たまに「面圧」という言葉を耳にしますが、何のことですか？
(テニス歴5年/40代女性)

ください。
プロ選手たちのストリングを張り替える時、選手たちは常に4、5本同じラケットを張り替えに出してきます。その時、張りの仕上がりをできるだけ同じようにしなければなりません。ラケット1本1本を張る時間に波ができるような張り方では、その分だけ仕上がりがバラついてしまいます。一定の時間でバラつきなく、しかも早く張ることができれば、その人はかなり技量が高いと言えるでしょう。

たわみ量に到達するまでにかかる圧力のことを言います。面圧が高ければ打感は硬くなり、逆に低ければ打感が柔らかくなります。
例えば同じラケットに、同じストリングを違うテンション(張力)で張った場合は、当然高いテンションで張ったラケットの方が面圧は高くなります。また、フェイス面積が異なる2本のラケットに対し、ストリングとテンションの条件を同じにした場合は、フェイス面積の小さい方が面圧は高くなります。そして、ストリングの種類によっても面圧は変化していきます。
このようにラケット、ストリング、テンションのどれかが違えば、面圧も変わってくると思うのですが、(3つ以外の他の条件によっても変化はしますが、ここでは省きます)。しかし近年はストリングを張り替える際に、ほとんどのお店が面圧ではなく、「テンション」を指定することが多いと思いますので、あまり気にしなくても大丈夫です。

ストリング 都市伝説

「張り替え機によって仕上がりは変わる?」

変わります。近年は電動式の張り替え機が主流なので、電動式を前提にお話しします。まず電動式はストリングを引っ張る部分が、ドラム型かそうでないかで変わります。ドラム型だと安定したテンション(張力)が出せないで、お店では採用されることが少ないです。また張り

替え機に変圧器が搭載されているかでも変わります。特に電気を多く使う時期(クーラーや暖房など)は一時的に電圧が下がってしまう場合、変圧器がないと指定したテンションで引っ張れないことがあるので、そうすると仕上がりが変わってきてしまいます。



コンピュータ制御はもちろん、変圧器が搭載されるモデルなどタイプも様々だ